

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部4年

氏名: 柳原 ゆり

授業科目名	海外歯科研修プログラムIV
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>法歯学による年齢推定に関する講義や口腔外科による口唇口蓋裂患者の実際の手術見学、隣臓ランゲルハンス島β細胞の免疫染色実験、ジープでプロモ山に登り乗馬をしたり、現地の小学生に歯磨きに関するプレゼンテーションと交流を行ったり、毎日異なるプログラムが組まれており、授業後はアイルランガの学生と現地探索するなど、大変刺激的で濃い10日間を送ることができた。アイルランガ大学で行われている免疫染色の方法や実際の手術を見学させていただき、日本では学べない内容を学ぶことができたのはもちろんだが、違う国違う大学に通う皆さんと集い、英語を用いて交流できたことが現地に行った一番の成果であると思う。</p> <p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>インドネシアではアイルランガの学生・先生だけでなく関わってくださった皆が親しく私たちに接してくれた。日本に比べ、やはりイスラム教信徒は多かったが、皆がそうではなく同数ほどイスラム教でない方もいたのが意外な発見だった。それもいつも宗教が頭の片隅にあるというより、一人一人の個性のようにそこに存在しているように感じられ、日本より宗教の多様性にとても寛容であるように感じた。コンビニが店員のお祈りの時間は閉められていたり、小学校のエレベーターが男女で別だったり、至る場所で日本にはない特別な文化を体験することができた。インドネシアは公用語がインドネシア語で、意外と外では英語が通じないこともあったのはもどかしかった。現地の方が温かい分、もっとインドネシアについて前提知識を持ってくればよかった、そう思った。</p> <p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>研修プログラムは10日間という短い期間であったが、忘れられないかけがえのない経験となった。研修前に比べ、自分の聞きたいこと、伝えたいことをアウトプットするハードルが下がり、英語に対する抵抗感も減ったように思う。自分から発信しなければ伝わらない、それを感じた旅でもあった。口唇口蓋裂の手術見学の際、その手術の鹿大との違いに興味があり質問した際、自分の質問内容が正しく伝わり、丁寧に答えてくださったことが嬉しかった。言葉が通じると学びも広がると感じた瞬間だった。また、グローバルに働きたい、歯科医療の届いていない地域に自分の医療を届けたいなど大きな志を持った参加者もあり、とても良い刺激を受けた。</p> <p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250~300字程度)</p> <p>今回の経験を通し、言語が通じることでこんなにもコミュニティが広がるのだということを実感でき、英語の世界の共通言語としての力を明確に再認識できた。将来歯科医師になる上でも、日常生活を送る上でも、英語の能力は自身のスキルアップ、社会貢献、QOL向上、コミュニティ拡大に繋がると考える。また、歯科専門用語を覚える必要性も感じた。よって、英語を積極的に使い勉強していきたい。現在コロナウイルス拡大が収束してきたこともあり、地域社会にも海外からの観光客・移住者が増加し、多言語話者のニーズが増している。以前目的地への行き方が分からず困っていた移住者の方に道案内をしたが、まずはそんな身近なところから未来の歯科医師としても一人の人間としても地域の役に立てる人間になりたい。</p>	

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

## 【研修参加者】

所属(学部(研究科)・学年): 歯学部4年

氏名: 西川比奈子

授業科目名	海外歯科研修プログラムⅣ
<p>1. 研修先での学習内容及び自身の学習成果について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修では、まずイントロダクションを受けた後に法医(歯)学・免疫組織化学・口唇口蓋裂に関する講義を受けた。その後実習や手術見学を受けた。法医(歯)学の実習では、人の全歯のパノラレントゲンを元にその人の年齢を推定するというを行った。レントゲンを元に年齢を推定する方法は様々あり、数値的に計算して求める方法もあれば解剖学的かつ視覚的に求める方法などを学び習得することができた。免疫組織学の実習ではウサギの脾臓の組織片の染色をインスリン産生細胞の染色をメインに行った。口唇口蓋裂の手術見学では、学生はグループごとに分かれ、私のグループでは、両側の唇裂の手術を見学させていただいた。麻酔をかけるところから約3時間の見学で、ただ立って見ているだけでも疲労感が強いのに術者の疲労はそれ以上だろうことを身をもって体感できた。また術者のスムーズな手技を間近に見ることができ、大きな刺激になった。</p>	
<p>2. 現地での生活を体験して得た気づきや学びを記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>インドネシア(スラバヤ)はイスラム教徒が多く、ショッピングモールや道端にもお祈りをするためのスペースがあることや、飲食店に豚由来の食品が置いておらず羊肉が多いことなどから、それを間近に感じることができた。アイルランガ大学のイスラム教徒の学生との交流で、お祈りには講話含めて30分かかるとか、女性が頭にかぶるヒジャブの巻き方、ヒジャブにも普段着用とスポーツ用などがあること、服と同じように毎日違うものをファッション的に楽しむことなどを知ることができた。また、現地のイスラム教の小学校に訪問したが、そこではエレベーターが男女で分かれており、イスラム教の男女区別の厳しさに衝撃を受けた。また、小学校訪問の際に前歯部に齲蝕を持つ生徒を何人か目視で確認し、外からは見えないだけで他にも齲蝕を持つ生徒が多くいるだろうことを推察した。実際に極端に甘い飲食物が多いと感じたし、インドネシアの齲蝕罹患率が高いデータが存在することからも、その正の相関関係を実感することができた。</p>	
<p>3. 研修前と後での自身の変化や最も成長した経験について具体的なエピソードをもとに記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>研修期間では様々な経験を得ることができたが、私は特に文化に適應する能力が身についたと思われる。インドネシアのトイレは日本と様子が大きく異なり、トイレトペーパーやウォシュレットが無い。洋式便器にはジェットウォッシャーというシャワーのようなものがついており、旧式便器(日本の和式便器に酷似している)には水が溜めてあるバケツや桶と手桶がついていて、用を足したらそのいずれかで臀部を洗い流すという使い方である。そのためインドネシアの公共トイレはどこも水浸しであるのがデフォルトで、最初はかなり躊躇した。また、イスラム教の寺院であるモスクは裸足で入らねばならず、当然トイレも裸足で入らねばならないため、最初は絶対に無理だと感じていた。しかし、最終日にはモスクの旧式便器で用を足せるようになっていた自分があり、適應力の成長を実感した。</p>	
<p>4. 地域社会の発展に寄与するため、今後取り組んでいきたいこと、自身の目標について記載して下さい。(250～300字程度)</p>	
<p>今回の研修では様々なことを体験させてもらったが、特に小学校訪問での歯科教育が、子供に対する啓蒙活動の楽しさややりがいを実感することができたことからも、大きく刺激を受けた。鹿児島県はインドネシアと比べて小児の齲蝕罹患率は低いが、日本全国の平均と比べるとその値は大きい。小児の齲蝕罹患率を下げることは鹿児島の地域社会の発展にもよく関わることであると私は考える。鹿児島大学歯学部の学生として、将来的には卒業生として、鹿児島の子供達への歯科教育・啓蒙活動に取り組み、齲蝕罹患率低下に貢献してみたいと、今回の研修をきっかけに考えるようになった。</p>	